



SPIKES

出典：The Oncologist
2000;5:302-311

悪い知らせの6つのプロトコール

1. 準備

- ・何をどのように話すのか事前に調べておく。
- ・起こりうる感情的反応に対処する計画を立てておく。
- ・悪い知らせを伝えることになって患者に希望を与え、患者の支えになれることを再認識しておく。

2. SPIKES1 Setting

- ・プライバシーを保証するような場を設定する。
- ・患者に「その場に居て欲しい人は誰か」を確認しておく。
- ・患者が涙ぐむ場合に備えてティッシュを用意しておく。
- ・患者と家族には必ず自己紹介し、患者のケアにおける役割を明確にする。
- ・アイコンタクトを維持し、適切なボディランゲージを使用する。
- ・双方にとって心地よい距離を保つ。
- ・患者が話すように促し患者の話を遮らない。
- ・短い沈黙には耐える。
- ・理解した患者の話を自分の言葉で繰り返す。

3. SPIKES2 Perception

- ・次のように質問して患者の病気の認識度を把握する。
「あなたが理解していることをお話しください。」
「あなたが主治医から聴かれたことはどんなことでしょうか。」
- ・否認の徴候は特に敏感に感じ取る。
否認は患者が恐怖やコントロール感を失うことへの対処の一つである。

4. SPIKES3 Invitation

- ・患者がどれくらいの情報を知りたいのかを評価する。
「あなたはたくさん情報を知っておきたいと思われるタイプですか、それとも...」
(患者の知る権利を尊重するのと同様に、患者の知りたくない権利も尊重する)
- ・常に現在の情報の必要性を確認していく。
患者は診断時に多くの情報を知りたいがこの要求は病気が進行するにつれ減少することがある。

5. SPIKES4 Knowledge

- ・評価した患者の理解力のレベルで医学的事実、情報を提供する。
- ・警告弾を放ってから悪い知らせを予測させ、情報を提供する。
「あなたに伝えなければならないことがありますが、あまり良い内容ではないので残念です.....」
- ・情報は小出しに、わかりやすく伝える。(医学的専門用語は避ける)
- ・患者がどのくらい理解したのかを時々確認しながら、それに応じて情報提供を調節していく。
「理解できましたか?」
「私の言っていることがわかりますか?」
- ・「我々があなたにできることはもうありません」と絶対に言わない。

6. SPIKES5 Empathy & Exploration

- ・すべての反応に共感的に反応する。
- ・患者の感情がわからないときは、患者の考えや気持ちを探索する。
- ・患者の気がかりを確認する。

悪い知らせのコミュニケーションスキル

SHARE プロトコール

【出典】コミュニケーション・
スキル・トレーニングテキスト
SHARE1.0版

基本 (S) 場の設定 (H) 悪い知らせの伝え方 (A) 付加的情報 (RE) 情緒的サポート

礼儀正しく患者に接する (S)
患者の目や顔を見て接する (S)
患者に質問を促し、その質問に十分にこたえる (H)
患者の質問にいらいらした様子で対応しない (S)

STEP 1 : 面談を開始する (面談室入室から悪い知らせを伝えるまで) <起>

大事な話の前は緊張しているので、患者の気持ちを和らげる言葉をかける (RE)
病状、これまでの経過、面談の目的について振り返り、病気に対する認識を確認する (H)
家族に対しても患者と同じように配慮する (RE)
他の医療者 (たとえば他の医師や看護師) を同席させる場合は、患者の了承を得る (S)

STEP 2 : 悪い知らせを伝える<承>

悪い知らせを伝える前に患者が心の準備をできるような言葉をかける (RE)
悪い知らせをわかりやすく明確に伝える (H)
患者が感情を表に出しても受け止める (RE)
悪い知らせによって生じた気持ちをいたわる言葉をかける (RE)
実際の写真やデータを用いる (H)
患者に理解度を確認しながら伝える (H)
今の話の進み具合で良いか尋ねる (H)
病状 (たとえば進行度、病状、病状の原因、転移の場所など) について伝える (H)
質問や相談があるかどうか尋ねる (H)
専門用語を用いた際には患者が理解しているか尋ねる (H)
紙に書いて説明する (H)

STEP 3 : 治療を含め今後のことについて話し合う<転>

標準的治療方針/選択肢/治療の危険性や有効性を説明し、推奨する治療法を伝える (A)
癌の治る見込みを伝える (A)
誰が治療選択に関わることを望むかを尋ねる (A)
患者が希望を持てるように、「できないこと」だけでなく、「できること」を伝える (RE)
患者が希望を持てる情報も伝える (RE)
患者が利用できるサービスやサポート (たとえば、医療相談、高額医療負担、訪問看護、ソーシャルワーカー、カウンセラー) に関する情報を提供する (A)
患者のこれからの日常生活や仕事についても話し合う (A)

STEP 4 : 面談をまとめる<結>

要点をまとめて伝える (サマリーを行う) <H>
説明に用いた紙を患者に渡す (H)
今後も責任をもって診療に当たること、見捨てないことを伝える (H)
患者の気持ちを支える言葉をかける (RE)